

# 会報

## 足利大学 後援会

第66号

発行  
足利市大前町268-1  
足利大学後援会

## ご挨拶



足利大学後援会 会長

八幡 孝行

足利大学後援会会員の皆様、日頃より後援会活動へのご理解ご協力厚く御礼申し上げます。

七月八日に開催された令和5年度足利大学後援会総会にて承認していただき会長の重任を仰せつかりました八幡でございます。

コロナ禍となったこの三年間は後援会理事会の開催も変則的な形で執行も多く十分な活動とはなりませんでしたが、昨年度は対面で四回の理事会を開催するまでになりました。

学生達への教育助成で厚生事業活動では、朝食サポートを開始しクラブサークル助成金補助申請のプレゼンも学生との対面に復活いたしました。

また、理事会も選任された理事の方同士の親睦を深める場もなく面識も薄い状態での運営となっておりましたが、「新型コロナウイルス感染症」の位置づけも五月八日から「五類感染症」へ移行され様々な制限が緩和されたことを受け以前のように学生達の支援ができるように親睦も深めていきたいと思っております。

本年度の後援会活動は、事業計画に基づき総会・理事会を開催する事により皆様の協力やご支援のもと会則にある学生の福祉を増進し、本学教育目的の達成を支援していきます。

各種活動支援としては、卒業研究・学会等の成果発表に係る交通費の支援やクラブサークル・自治会や球技大会、大学祭の行事経費支援と工学部・看護学部ともに在学中に取得可能な資格が多数あり、試験費や受験料の支援も継続してまいります。

環境面では昨年度に承認された看護学部へのマイクロボス寄贈が執行される臨地実習等の改善に役立っていただけていると思っております。その他にも通っている学生が充実したキャンパスライフを過ごせるように教育環境整備として各種設備の備品などの寄贈も計

画的に行っていきます。学生や大学からの要請に基づき、理事会が決定した支援活動も継続します。

また、今年で五十五回目を迎える「わたらせ祭」はオンライン配信と一部対面のハイブリッド形式で行われた昨年度とは違い対面形式で開催する連絡が実行委員会よりありました。

ぜひ皆様には大前キャンパスへ出かけて学生たちとともに祭りを盛り上げていただきたいと思っております。後援会も出店が決まりましたのでわたらせ祭役員のもとよろしくお願いいたします。

コロナ感染が無くなった状況にはありませんが、徐々に以前のような支援活動を実行する事により充実した学生生活を送り、学生達の国内外での活躍を願います。

後援会の皆様におかれましては引き続きご協力の程よろしくお願いいたします。



令和5年度 後援会総会（7月8日開催）

### 退会役員

長期にわたり、後援会にご尽力を頂きました。心より感謝いたします。誠にありがとうございました。

理	理	理	理	理	会	会	副	副	会
事	事	事	事	事	計	計	会	会	長
名	館	井	青	市	吉	和	清	宇	鈴
和	岡	口	木	川	田	田	水	野	木
久	久	早	順	克	知	育	良	健	政
美	美	苗	子	弘	子	子	男	司	弘
子	子	苗	子	弘	子	子	男	司	弘
美	美	苗	子	弘	子	子	男	司	弘
子	子	苗	子	弘	子	子	男	司	弘
美	美	苗	子	弘	子	子	男	司	弘
子	子	苗	子	弘	子	子	男	司	弘

# アフターコロナにおける

## 足利大学



学長

末武 義 崇

本年五月八日、新型コロナウイルス感染症の位置付けが、「二類感染症」から「五類感染症」に移行し、本格的に「アフターコロナ時代」に入りました。後援会の皆さまには、感染症に対する不安が完全に払拭できない中にも、日頃より本学の教育・研究に関するご理解とご協力を賜り、心より御礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が拡大していた時期には、遠隔授業の実施やリアルな活動に大きな制約が加わるなど、学生・教職員共に大変な混乱を余儀なくされました。一方で、数年に亘る感染症対策の経験を踏まえ、授業体制や学生生活を少しずつ通常に近づけていく努力も継続してきました。昨年度から、感染症対策に配慮しながら授業を対面に戻し、今年度はクラブ活動の全面的な再開や学園祭のリアルな開催など、本格的な学生活動の復活を目指し、「アフターコロナ時

代」に相応しい教育・研究活動を進めております。

こうした中で、昨年度の後援会会報でお知らせした「三つのキーポイント」のそれぞれについても、特筆すべき進展がありました。二つ目の「SDGsに繋がる教育」については、本学の学生であれば誰もがカーボンニュートラル（CN）について学ぶことができ、新たな教育プログラム、「足利大学CN教育プログラム」を今年度からスタートさせることができました。対象科目である「創生工学概論（年次）」と「エネルギー工学（二年次）」の単位取得すれば、自動的に学内認定が得られる仕組みです。カーボンニュートラルや再生可能エネルギー、省エネルギーに関する基礎的な知識と技術を学ぶことができます。

二つ目の「DXに繋がる教育」に関する話題としては、今年度の五月二十九日、足利市・デロイトトーマツコンサルティング・エアロエツ

ジ・足利大学の四者が、教育現場におけるDXを推進する連携協定を締結したことが挙げられます。足利市内の小中学校向けに、AIDドリル、採点業務支援システム、健康観察アプリを開発・導入するために、デロイトトーマツ様の指導の下、本学の学生が「教育DX推進支援員」として頑張っております。

三つ目の「国際化に繋がる教育」については、新型コロナウイルス感染症拡大によって中止を余儀なくされていた、短期留学プログラムを再開・始動しております。既に、今年度の二月二十七日から三月十三日までの二週間、十二名の学生がフィリピンのマリアナ・マルコス州立大学における英語留学プログラムに参加しており、学生のモチベーションが大いに高まりました。この他、八月末には米国イリノイ州立大学スプリングフィールド校、来年の二月には台湾の中華医事科技大学への短期留学プログラムが予定されており、活動を積極的に推進し、国内だけでなく世界で幅広く活躍できるグローバルな人材を育てて参ります。

学生の総合力の向上に向けて、教職員一同丸となつて努力を積み重ねております。今後とも、後援会の皆さまのご理解とご協力を、宜しくお願い申し上げます。

# 新型コロナウイルス感染症第五類

## 移行後における工学部の取り組み



副学長兼工学部長

安 藤 康 高

後援会の皆様には、平素より教育、研究、就職に関するご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

二〇二三年一月二十日に、政府により新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けを五類感染症に見直す方針が決定され、工学部の行動制限も徐々に緩和できるようになりました。そのおかげもあり、二〇二二年度は入学式を対面形式で開催することができ、また一日のみの行事ではありましたがフレッシュマンキャンプも再開することができました。

しかしながら、大学の入学式は学生の皆さんやご家族にとって非常に大切な行事の一つでございますので、入学式会場への入場が新入生の皆さんのみでご家族の皆様にご同席頂けなかつた事は、大変残念であり心苦しい限りでございます。全ての行事が一日も早く本来の形で行事が行えるよう努める所存にございます。

新型コロナウイルス感染症が正式に第五類感染症に引き下げられたことに伴い、教室入室前の検温は強制から任意へと変更になり、ほぼコロナ禍前の環境で受講して頂けるようになりました。昨年度も本稿で紹介させて頂いた、文部科学省よりMDASH（リテラシーレベル）に認定された「足利大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム」も、二年目（二〇二二年度）の自己点検・評価が終了し、改善提案を反映した形で三年目の授業が四月より始まっております。また、今年度からは「SDGsカーボンニュートラル教育プログラム」が新たにスタートしております。足利大学は、風力発電や太陽熱調理器等、再生可能エネルギー利用技術の研究で以前より国内外から高い評価を頂いておりますが、文部科学省、環境省、経済産業省の主導による二〇五〇年カーボンニュートラルの実現に向けた大学等間ネットワーク「カーボンニュートラル達成に貢献する大

学部の取り組み

学等「コアリション」への加盟をきっかけに本格的な教育プログラムを立ち上げる事となりました。

国際交流活動も、これまで交換留学プログラムは全てオンライン開催でしたが、マリアノ・マルコス州立大学（MMSU）での英語研修プログラムから、現地に赴く渡航型で開催されることとなりました。当該英語研修では、工学部学生四名、看護学部学生八名の計十二名が、二月二十七日（三月十三日の日程で、MMSUバタックキャンパスにて午前英語研修、午後MMSUの学生との交流行事のスケジュールを毎日）なし、一週間も経たないうちにMMSUの教員や学生と全て英語でコミュニケーションが取れるようになりました。二十年以上続いておりますイリノイ大学スプリングフィールド校（UIS）との交換留学プログラムも、二〇二三年八月二十八日～九月十一日の日程で渡航型プログラムとして開催されます。また、七月後半には中華医事科技大学の学生、八月前半には浙江工業大学の学生の来学が予定されており、派遣のみならず受け入れも再開致しております。

以上、簡単ではございますが、工学部を中心に本学の近況を報告させて頂きました。今後も学生の皆さんに充実した学生生活を送って頂けるよう、努める所存にございますので、後援会の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 看護学部開学 十年目を迎えて



看護学部長

杉原 喜代美

後援会の皆様には日頃よりご支援を賜り心より感謝申し上げます。

ここ歴史と文化の香りに満ちた足利で本学園が看護基礎教育を始めたのは、足利短期大学看護科からです。平成八年から二十一年間で八四名の卒業生を輩出し、社会の要請に伴いその役割を大学教育に引き継ぎました。

平成二十六年四月足利工業大学看護学部として開設しその後、平成三十年三月に完成年度を迎え、同年四月校名を足利大学としました。今年三月に六期生を初めて大前キャンパスAUGアリーナで大学院、工学部、看護学部、足利短期大学合同の学位授与式で送り出し、卒業生総数は四八六名となりました。

続いて、令和五年度入学式も大前キャンパスAUGアリーナで足利大学と足利短期大学合同の式典となり、看護学部新入生八十二名を迎えました。

本学部は「調和の精神と看護専門職としての倫理観を持ち、社会に貢献できる人材養成」を教育目的に掲げ、今年で十年目になります。

先日看護学部同窓会を設立することができ、看護学部開設準備室から設立にかかわってきた者として二応のお役目が終わり安堵しているところです。

開設から現在までを振り返ると様々なことが蘇りますが、令和二年からの新型コロナウイルス感染症拡大は類を見ない教育上の危機的状況であったと思えます。特に看護基礎教育は臨地実習が重要な学修の機会となりますが、コロナ禍においては細心の注意を払いながら、佐藤臨地実習委員長とともに教職員一丸となり綿密に対応してきました。対応経過をまとめますと、令和二年度のはじまりは、ちょうど初めの緊急事態宣言中、最初はインターネットを使った遠隔実習

で、その後、少しずつ学内実習の割合を増やしてきました。そして、実習受け入れが可能な実習施設では実習を再開していききました。この二年間は、感染状況をしながら、感染が落ち着いている時期は臨地で実習を行い、感染が拡大すると学内実習に切り替えるという方法で、実習を進めていきました。

令和五年度は、多くの実習施設で実習を受け入れて頂いていました。しかし、コロナ前と同様の実習ができる科目もあれば、そうでない科目もあります。実習に協力して下さる患者さんや利用者さん、という対象者の方の安全を考えると、特に老年看護学実習、在宅看護論実習などは学内実習の時間が増えていきます。これに対しては、担当教員がシミュレーション演習を取り入れるなど、実習内容を工夫しながら指導に当たっています。新型コロナウイルス感染症は、五月八日より感染症法上の位置づけが、世の中的には五類感染症となりましたが、医療の現場、実習施設の感染管理体制は変更ありません。以前、油断できない状況が続いています。

自分自身が感染するリスクを避けて、実習施設に感染を持ち込まないよう、十分に注意するよう指導しています。具体的には毎日、自分の健康状態を確認して健康調査票に記録することや、感染

のリスクを最小限にするために実習前二週間前からはアルバイトは中止することなどです。さらに実習施設ごとに感染予防策がありますので、担当教員からそれを説明しています。その内容は実習前にPCR検査や抗原検査を行う、様々なワクチン接種状況を報告するなど、実習施設によって様々です。

引き続き、本学の臨地実習は、文科科学省・厚生労働省の方針を遵守しながら、実習受け入れ病院・施設の状態や意向に沿って、弾力的に教育活動を進める予定です。

次に国家試験結果のご報告です。令和五年二月に実施された本学第六期生の看護師国家試験合格率は九十五・一％で全国平均を上回りました。保健師国家試験も合格率九十三％で全国平均に達し四十名が合格しております。国家試験対策学修支援プログラムをさらに強化し、現在富山国家試験対策委員長を中心に来年二月の国家試験を目指して学生・教員ともに頑張っています。進路についてですが、主な就職先は臨地実習病院を中心に例年一〇〇％の就職内定率を保っております。

教育課程については、保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正による新カリキュラム運用も二年目となりました。現在順調に運用ができています。また、指定規則や大学設置基準に則っ

たカリキュラムのほか建学の精神から情意領域の育成を図るため年間行事の整備を行いました。

「看護の日誓願式」を五月から「領域別実習の前に行います。」  
 以上看護学部現状報告をさせていただきます。

年次生が、合格を祈願する機会としました。さらに、三年次生は「看護の日誓願式」を五月から「領域別実習の前に行います。」  
 以上看護学部現状報告をさせていただきます。

今後、ご子息・ご息女様の大学生活が充実したものとなりますよう後援会の皆様のご理解とご協力を賜りたくよろしくお願ひ申し上げます。

## 本学が取り組む 新しい教育プログラム



工学部 教務委員長  
小林 重昭

後援会の皆様には、日頃より本学の教育活動へのご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本年度、工学部の授業は、ほぼコロナ禍以前の対面授業に戻り、一年生の入学時のイベントであるフレッシュマンキャンプも日帰りの日程ではありませんでしたが、四年ぶりに再開することができました。

事後アンケートにおいて、多くの学生の皆さんから、友人を作ることに、教員との距離感を縮めること、大学生活への不安を解消することができたとの回答が得

られ、このキャンパスの目的を達成できたことを本当に良かったと感じています。コロナ禍に入学し、対面授業やイベントが中止になってきた三、四年生からも、学内での活動の制限がなくなり、学生生活が充実してきたという意見も聞くことができるようになってきました。

さて、工学部では、文部科学省の認定プログラムである数理・データサイエンス・AI教育プログラムについて、これまでのリテラシーレベルに加え、基礎応用レベ

ルの実施に向けて申請準備を進めています。また、末武学長の主導のもと、足利大学カーボンニュートラル(CN)教育プログラムという本学独自の認定プログラムを今年度よりスタートさせています。

地球温暖化による様々な気象災害を抑制するために、その原因となる二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を吸収量と均等させ全体としてゼロとするカーボンニュートラルの実現は世界的な課題となっています。そのため、国、自治体、事業者だけでなく、私たち一人ひとりにとって

も正しく理解し、取り組むべきものとなってきました。ご存じの方も多いことかと存じますが、足利大学では、カーボンニュートラルの重要性が指摘されるようになる以前から、再生可能エネルギーや省エネルギー化に関する研究に力を入れて取り組んできました。

「足利大学CN教育プログラム」は、これらの研究を通じて得られた多くの知見、経験を踏まえ、カーボンニュートラルの基本知識を多くの学生の皆さんに修得してもらうことを目的としています。

創生工学科の四つの分野がそれぞれ関わる①カーボンニュートラル、②再生可能エネルギーおよび③省エネルギー化に関する基礎的な知識と技術の修得を目的としており、令和五年度入学生から全員が学ぶことができます。

本プログラムを通じて、学生一人ひとりがカーボンニュートラルおよ

び省エネルギー化に関する知識および技術を日常生活や仕事等の場で使いこなす基礎的素養を身に付け、これからの社会に必要な人材として活躍できるようになる

ことを期待しています。今後とも工学部教務委員会の活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 看護学部の教育課程と 国家試験



看護学部 教務委員長  
沼田 加代

新型コロナウイルスの五類感染症への移行に伴い、文部科学省から「令和五年五月八日以降の大学等における新型コロナウイルス感染症対策について」の周知がありました。

この周知では、大学は、感染状況に応じた対策を適切に講じながら、学修者本位の教育活動の実施が重要とされています。本学部においても、これまで三年余にわたり、学生にとって不便さもあつたかと思いますが、遠隔授業や分散の対面授業の実施など、学修内容の担保と感染対策の徹底の両立を講じてきました。

今年度は、全面的に対面授業となり、学生達が登校する本城キャンパスも活気づいています。さて、昨年度の四月からは「保

健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正」による「新カリキュラム」による学びが開始され、今年度は二年目になりました。この新カリキュラムにおいて、看護師基礎教育の在宅看護論は、「地域・在宅看護論」として単位数が増えましたが、今現在のところ、順調にカリキュラムは運用されています。

また、本学部の卒業要件は二四単位と変更はないものの、看護師基礎教育として必要な総単位数は現行より五単位増の二〇二単位と引き上げられ、より一層、看護師基礎教育の充実化が求められています。

さらに、新カリキュラム開始により、令和五年度受験生から「保健師助産師看護師国家試験出題

基準」の改正が行われました。ただし、この数年間は、改正前のカリキュラムで学んだ受験者への配慮もあり、現在、在学している学生は移行期の国家試験の受験生となります。この出題基準は、保健医療の現場に、少なくとも具有すべき基本的な知識及び技能が含まれています。今回の出題基準の見直しは、「人口・疾病構造や社会背景などを踏まえつつ、近年の保健・医療・福祉の実情など看護を取り巻く状況の変化」に適応しながら、「看護実践能力と卒業時の到達目標との整合性」を図っています。この国家試験出題基準は、看護師は平成十二年の国家試験から適用され、その後、社会の変化や看護を取り巻く状況を踏まえて、五十年の間隔で改正を重ねてきています。

まさに、社会とともに看護専門職の育成も変化し続けています。学生一人一人が、学業を全うし、看護師として、保健師として、そして、養護教諭として、卒業後に活躍できるように教職員一同、力を尽くして参ります。今後とも保護者の皆様と後援会の皆様からのご支援宜しくお願い申し上げます。

## 学生支援の取り組み



工学部 学生指導委員長  
森 慶 輔

後援会の皆様には学生のさまざまな活動にご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

コロナウイルス感染症が感染症法上の二類から五類に位置づけが変更され、学生のさまざまな活動が再開されつつあります。工学部学生指導委員会はこうした変化を受け、従前から実施している学生の出席履歴に基づいた修

学支援や年二回の教育相談会だけでなく、サークル活動やわたらせ祭の活性化を学生支援課と協力して実施して参ります。また、高校生活をコロナ渦中で送ってきた学生の中には大学生活を送る上で問題を抱えている学生が散見されることから、保健室や学生相談室と連携してきめ細やかな支援を行う体制を整えて参ります。

本年度は、九月および三月に学生を交えて保護者と教員が面談する教育相談会を実施する予定です。ここ数年は電話等での実施でしたが、今年度からは来学いただいたの対面による相談といたします。教職員が保護者の皆様にお会いする機会はありませんので、万障お繰り合わせの上、ご参加いただければ幸いです。

わたらせ祭は十月八日と九日に大前キャンパスで実施予定です。今年度は足利短期大学も参加で実施するべく調整を進めております。保護者の皆様には学生の勉強以外の活動も是非ご覧いただければと存じます。また長らく実施してこなかった球技大会も十一月に実施する方向で調整しております。サークル活動も含め、こうした学生の自主的な活動に対して学生支援課を通じて支援して参ります。

このように学生生活もコロナ以前の形に戻りつつありますが、依然としてコロナウイルスに感染する学生が散見されます。工学部学生指導委員会は学生支援課と連携をとり新型コロナウイルスの感染防止に努めますが、あわせてウィズコロナ時代の新しい学生支援のあり方を模索し、学生が充実したキャンパスライフを謳歌できるよう努力して参りますので、後援会の皆様からの変わらぬご支援をお願い申し上げます。

## 学生指導・支援の取り組み



看護学部 学生指導委員長  
中 村 史 江

後援会の皆さまには、日頃よりご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

今年度五月から新型コロナウイルス感染症は五類感染症に移行しました。看護学部としましては、医療機関や高齢者施設など臨地での実習を行うため、実習と同様に学内の生活においてもマスクを着用し大声を出さないことや手指消毒・咳エチケットなどを継続し、毎朝自宅で検温した結果を大学指定の健康調査票に記載するなどの感染予防対策に努めております。

看護学部学生指導委員会は、大学生が安心・安全に充実した学生生活を送ることができるよう目標達成に向け活動しています。以下、具体的取り組みについて紹介いたします。

四月初めに新入生の「フレッシュマン交流会」を行いました。大規模内から一歩離れたあしががワラワパークで、美しい花々に囲まれながら新たな仲間や教職員と

の交流により人間関係の輪（和）を広げる機会を持つことができました。看護学部の学生支援体制は、アドバイザー教員が一人ひとりの学生生活をサポートし、さらに各学年二名のクラス担任がクラス全体のサポートを行っています。また、学生がより充実した学生生活を送れるよう、公認心理士による学生相談の取組みや「オフィスアワー制」により学生からの学修方法や授業内容等に関する質問への支援に対応できる体制をとり、進路に関する就職先の選定や大学院進学に向けて取り組む学生への個別的な相談も充実させております。その他、昨年度から制度化された成人年齢引き下げによる消費者トラブルの未然防止と消費者問題解決力を身に付けるための消費者カレッジの開催や学費サポートにおける奨学金制度、事故や災害時など様々なサポートを行っています。今年度も四月に新入生保護者説明会、そして、六月に二、三、四

年次生へ保護者説明会をWebで開催し、保護者の方々から繰り返し閲覧できると好評を得ています。また、国家試験対策の強化に向け、六月に四年次生を対象とした教育相談会を四者面談で実施しました。さらに、十月には再度、国家試験対策強化と前期成績を基にした面談の実施を予定しております。年度末の三月には、新年度に向けて成績が心配な学生を対象とした四者面談を実施し学生を支援して参ります。今年度も充実した学生生活づくりに学生と共に努力し活動していきたいと考えております。ご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

# 就職支援の

# 取り組みと現状



キャリアセンター委員長

木村 彰 徳

後援会の皆様には、日頃より本学学生の就職支援に関しまして多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。昨年度の内定率は、工学部九十五・八％（就職者数二二七名／就職希望者三三七名）、大学院修士課程一〇〇％（九名／九名）、看護学部一〇〇％（七十五名／七十五名）となりました。

就職活動の時期にコロナ感染症の第六波と第七波が重なり、昨年も学生には大変な就職活動になりました。また、コロナ禍における就職活動は変化し、説明会や選考はオンラインと対面が併用

されるようになってきています。学生は、そのような状況下で就職活動を行い、微増ではありますが前年度以上に多くの学生が内定を得ることができました。これも後援会の皆様のご支援あつてのもの、重ねて厚くお礼申し上げます。

三年生のキャリア科目として単位認定をする夏季休業中の長期インターンシップも第七波と重なりましたが、十五名の学生が現場での作業を通して学んだことを日誌にまとめ、それを企業様からご評価いただくことができました。

就職課（現キャリアセンター）の取り組みとして、工学部では、十月十二日及び十一月十日に、就職情報交換会を昨年と同様にオンライン開催し、教員が企業様とスムーズに面談を進めることができました。東京方面二六二社、足利方面二四八社の企業様に参加いただき情報交換を行うことができました。

十二月六日に、積尊成道会法要及び特別講演会が開催されました。特別講演会の講師にバンドー化学株式会社 総務グループ長 成瀬綾野様、人事部主任 谷康弘様を招き、「働くことの意義や目的を考える」と題して講演いただきました。学生は熱心に聴

講し、講演後に質問し、就職活動の本格的なスタートに向けて良ききっかけになったと思います。三月七日から九日に、学内企業セミナーがオンラインで開催されました。二六社の企業様にご参加いただき、延べ三三三名の学生が参加いたしました。オンライン開催ではあるものの学生は熱心に説明を聞き、活発に質問をしている姿を頼もしく感じました。

看護学部では、例年通りに進路ガイダンス及びキャリア講座を実施しました。二月二十二日には、実習病院就職説明会を昨年に引き続きオンラインで開催し、七施設より説明をいただきました。三年生八十五名が参加し、学生

の満足度も高かったようです。その他に、学生の資格取得支援や「保護者のための就職ガイドブック」の制作を通して、学生の就職活動を支援することができました。

本年は、「求人受付NAVI」システムを活用し、工学部二、九八六社、大学院九、九二九社、（七／七現在）と大変多くの企業様より求人をお願いしております。求人状況は上向きとなっております。売り手市場が続いております。すべての学生が希望の企業に就職できるように、後援会の皆様と共に、学生、教職員が引き続き連携できればと考えております。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

令和5年度 足利大学後援会役員一覧

役職	学籍番号	氏名	所在地	学生所属	学年
1	E22246	八幡 孝行	前橋市	電気電子	2
2	S21166	田中 貴子	佐野市	システム情報	3
3	A22150	高野 美奈	足利市	建築・土木	2
4	N21006	新井 美穂	佐野市	看護	3
5	N21031	齋藤 三和	足利市	看護	3
6	N20081	増澤 香織	足利市	看護	4
7	N22012	上野 ゆり子	下野市	看護	2
8	N20092	吉澤 朋子	足利市	看護	4
9	A21115	齋藤 尚美	足利市	建築・土木	3
10	A21246	松島由美子	伊勢崎市	建築・土木	3
11	M20036	牛久 雅広	栃木市	機械	4
12	S20081	神谷 和与	熊谷市	システム情報	4
13	A20112	小暮 陽子	みどり市	建築・土木	4
14	A20212	永田 淳子	栃木市	建築・土木	4
15	N20001	青木真由美	太田市	看護	4
16	N20024	大橋 弘	太田市	看護	4
17	M21156	高田美恵子	足利市	機械	3
18	E21132	椎名 啓恵	足利市	電気電子	3
19	E21226	福地めぐ美	館林市	電気電子	3
20	S21089	木村 沙織	佐野市	システム情報	3
21	S21170	谷川 宏明	桐生市	システム情報	3
22	M22225	町田 忍	大泉町	機械	2
23	E22052	岡田 誠	前橋市	電気電子	2
24	S22082	國安三紀子	さくら市	システム情報	2
25	S22111	櫻井 麻美	足利市	システム情報	2
26	A22001	相澤美佐子	佐野市	建築・土木	2
27	N22090	若井 周平	上三川町	看護	2
28	M23156	中田かおり	佐野市	機械	1
29	E23093	坂本 雅俊	さくら市	電気電子	1
30	S23041	大野 晴代	足利市	システム情報	1
31	A23075	栗田 京子	足利市	建築・土木	1
32	N23028	幸田 薫	足利市	看護	1
33	N23032	小林 広美	太田市	看護	1
34	A19146	鈴木 政弘	足利市	建築・土木	卒

# 足利大学後援会収支決算書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

## 収入の部

(単位 円)

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(B)-(A)	摘要
繰越金	32,971,518	32,971,518	0	
会費	35,150,000	34,450,000	△ 700,000	1,378名分(@25,000円)(工学部1,047名、看護学部331名)
雑収入	60,000	93,070	33,070	学生災害傷害保険異動返還金 84,070円 クラブ援助金返金 9,000円他
計	68,181,518	67,514,588	△ 666,930	

## 支出の部

(単位 円)

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(B)-(A)	摘要
1 運営費	2,800,000	1,948,129	△ 851,871	
会議費	1,400,000	944,192	△ 455,808	後援会総会・理事会等諸費用・退会役員記念品
事務費	500,000	330,000	△ 170,000	事務費一般
印刷費	250,000	178,387	△ 71,613	封筒(4,000枚)・後援会会報
通信費	650,000	495,550	△ 154,450	後援会総会通知・会報・AU通信発送
2 学生助成費	28,900,000	6,556,846	△ 22,343,154	
学生研究補助費	900,000	146,380	△ 753,620	学会登録費・交通費等
クラブ援助費	12,000,000	1,853,710	△ 10,146,290	参加費・連盟費・交通費・消耗品等
学生活動費	10,000,000	0	△ 10,000,000	
卒業記念費	4,000,000	2,993,826	△ 1,006,174	卒業アルバム工学部・卒業記念品
保険料	2,000,000	1,562,930	△ 437,070	学生災害傷害保険料
3 教育助成費	15,000,000	1,055,439	△ 13,944,561	
就職推進補助費	2,000,000	578,887	△ 1,421,113	成道会謝礼・就職支援ブック(保護者向け)
厚生事業費	3,000,000	292,500	△ 2,707,500	資格取得支援・抗体価検査代・貸出スポーツ用品
教育環境援助費	10,000,000	184,052	△ 9,815,948	宿泊補助・大型扇風機
4 慶弔費	700,000	95,651	△ 604,349	入学・学位授与式等献花代 香典 他
5 雑費	100,000	0	△ 100,000	
6 積立金	20,000,000	20,000,000	0	
7 予備費	681,518	0	△ 681,518	
8 研修費返還	0	0	0	
9 繰越金	0	37,858,523	37,858,523	
計	68,181,518	67,514,588	△ 666,930	

### 積立金の部

(単位 円)

前年度繰越金	10,000,000
一般会計より	20,000,000
合計	30,000,000
支払金額	0
残高(繰越金)	30,000,000

上記のとおり相違ありません。

令和5年3月31日

足利大学後援会 会計 吉田知子  
和 田 育 子

監査の結果、上記のとおり相違ありません。

令和5年6月24日

足利大学後援会 監事 上野ゆり子  
増澤香織

### 【後援会事務局よりお詫び】

予算項目”7予備費”が総会時735,673円となっておりましたが、正しくは681,518円でした。

令和4年度決算書、令和5年度予算書共に訂正させていただきます。

# 令和5年度 足利大学後援会予算書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

## 収入の部

(単位 円)

科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	摘要
繰越金	37,858,523	32,971,518	4,887,005	
会費	32,675,000	35,150,000	△ 2,475,000	工学部 986名分、看護学部 321名 (@ 25,000円) ※5月在籍数、休学・留学・留年除く
雑収入	247,653	60,000	187,653	クラブ援助金返還187,653円 学生災害傷害保険異動返還金60,000円
計	70,781,176	68,181,518	2,599,658	

## 支出の部

(単位 円)

科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	摘要
1 運営費	2,800,000	2,800,000	0	
会議費	1,400,000	1,400,000	0	後援会総会・理事会等諸費用
事務費	500,000	500,000	0	事務費一般
印刷費	250,000	250,000	0	後援会報発行印刷代 他
通信費	650,000	650,000	0	後援会総会通知発送費・後援会会報 発送費・AIT通信発送費 他
2 学生助成費	28,900,000	28,900,000	0	
学生研究補助費	900,000	900,000	0	卒業研究等補助
クラブ援助費	12,000,000	12,000,000	0	クラブ活動援助費
学生活動費	10,000,000	10,000,000	0	学生自治会援助金・大学祭援助 等
卒業記念費	4,000,000	4,000,000	0	卒業記念アルバム作成費
保険料	2,000,000	2,000,000	0	学生災害傷害保険料
3 教育助成費	17,000,000	15,000,000	2,000,000	
就職推進補助費	2,000,000	2,000,000	0	就職関連補助
厚生事業費	3,000,000	3,000,000	0	朝食補助・情報処理資格試験補助 他
教育環境援助費	12,000,000	10,000,000	2,000,000	学内環境設備費
4 慶弔費	700,000	700,000	0	入学式献花・香典 他
5 雑費	100,000	100,000	0	
6 積立金	20,000,000	20,000,000	0	
7 予備費	1,281,176	681,518	599,658	
計	70,781,176	68,181,518	2,599,658	

## 積立金の部 (単位 円)

前年度繰越金	30,000,000
一般会計より	20,000,000
合計	50,000,000

後援会から看護学部マイクログラスおよび学生登下校用中型バスのバス寄贈を令和四年度に決定していただきました。バス発注・納車はバス製造・販売の事情により遅れていますが、有意義に使わせていただく所存です。マイクログラスは九月頃の納車を予定しております。また、「わたらせ祭」などで使用するテントの寄贈も決定していただきました。誠にありがとうございました。

最後に、後援会の理事や会員の皆様からのご意見・要望について、事務局としても真摯に受け止め、学生へのサポート、満足度の改善等について最善の方策を探りながら進めていきたいと考えております。今後も後援会会員の皆様のご協力をお願いいたします。

令和四年度はコロナ禍が続くも、授業および定期試験は全面対面で実施しました。第七波・八波と大変な時期もありましたが、概ねコロナ感染症と対峙しながら乗り越えることができました。令和五年度五月からは、コロナ感染症も第五類となり、大学ではインフルエンザと同等の対応をしております。コロナ感染者数は増加傾向にありますが、通常通りの授業を実施しております。

大学祭「わたらせ祭」については、令和四年度は前年度に続きオンライン開催になったものの、学生が「丸」となり、様々な企画を考え、大変充実した「わたらせ祭」を成功させております。令和五年度は、いよいよ、全面対面での実施(ライブイベントや模擬店)を計画し、着々と準備を進めております。後援会は模擬店の出店を進めております。

学生の生活面のサポートとして、大前キャンパスにおいて後援会補助による「朝食サポート」の復活を目指しております。以前のようには学生食堂でのサポートが難しく、学生生協の協力を得て、令和五年五月から七月末までを試行期間として実施しております。試行の結果次第で今後の継続・内容変更等考えていきたいと思っております。

事務局 便り